

📺 番組概要

“理想の性”と現実の狭間で (バラエティ/情報)

岡山大学病院ジェンダークリニックは、心と体の不一致に苦しむ性同一性障害の患者を、産婦人科、精神科、泌尿器科、形成外科などが連携して治療にあたる全国有数の医療拠点である。

岡山大学病院ジェンダークリニックで、女性への性転換手術を受けた男性を紹介。男性は手術を受けるまで、ニューハーフとして水商売で働いていた。手術後は男性であることを隠して就職したものの、現在は生活保護を受けている。岡山大学病院ジェンダークリニックの外来患者で、自殺を考えたことがあると回答した人は、2008年のリーマン・ショック以降に急増し、現在は半数を超えている。

性同一性障害で、戸籍上は女性だが男性の名前を名乗って児童クラブの指導員をしている箱島恭之さんを紹介。箱島恭之さんは、岡山大学病院に通院している。

岡山大学病院の松本洋輔医師は、性同一性障害の患者の職場での悩みなどを聞いている。児童クラブの指導員をしている箱島恭之さんは、性転換手術を受けることに不安を感じていた。

岡山大学病院ジェンダークリニックは、患者の就労支援の一環でボイストレーニングなどを行なっている。女性への性転換手術を受けた男性が、求職活動を行った。

キーワード [岡山大学病院](#) [性同一性障害](#) [リーマン・ショック](#)